

標準委員会 リスク専門部会 津波PRA分科会
第15回津波PRA分科会議事録

1. 日 時 2012年8月22日(水) 13:30~17:00

2. 場 所 電中研本部 第4会議室

3. 出席者(敬称略)

(出席委員) 山口主査(阪大), 桐本幹事(電中研), 秋山委員(CTC),
安中委員(東電設計), 喜多委員(TEPSYS), 倉本委員(NEL), 黒岩委員(MHI),
鈴木委員(原技協), 杉野委員(JNES), 竹山委員(中電), 中井委員(JAEA),
成宮委員(関電), 平野委員(東京都市大), 藤本委員(JNES),
松山委員(電中研), 美原委員(鹿島建設), 守屋委員(日立GE)(17名)

(欠席委員) 蛭沢副主査(JNES), 木下委員(保安院), 佐竹委員(東大),
高田委員(東大)(4名)

(常時参加者) 根岸(GIS), 関沢(中電), 西尾(JNES), 杉本(東電), 廣川(TEPSYS)
(7名)

(傍聴者) 太田(電発)(1名)

(敬称略)

4. 配付資料

- RK2SC 15-1 第14回津波PRA分科会議事録(案)
- RK2SC 15-2-1 津波PRA別冊 評価適用例集 項目整理(案)R4改訂版
- RK2SC 15-2-2 別冊 評価適用例集
- RK2SC 15-2-3 事例Aサイト・プラントウォークダウンに参考となる事例 R10版
- RK2SC 15-2-4 事例L 事故シーケンスの解析事例
- RK2SC 15-2-5 事例B 津波ハザード評価の事例について
- RK2SC 15-2-6 津波PRA手法におけるフラジリティ評価事例(案)
- RK2SC 15-3-1 Implementation Standard Concerning the Tsunami Probabilistic
Risk Assessment of Nuclear Power Plants: 2011
- RK2SC 15-3-2 英訳版コメント・修正表
- RK2SC 15-3-3 4.Assessment Procedure
- RK2SC 15-3-4 9.Accident Sequence Assessment
- RK2SC 15-3-5 Attachment G (Reference) Tsunami Hazard Assessment
- RK2SC 15-3-6 RK2SC-2-
- RK2SC 15-4-1 第一回「津波PRA評価手法の概要及びシステム解析」
- RK2SC 15-4-2 2.津波ハザード解析
- RK2SC 15-4-3 地震PSA実施基準の改定にかかる方針と検討課題候補(案)
- 参考1 第14回津波PRA分科会議メモ(案)

- 参考2 津波ハザード評価からフラジリティ評価までの流れ及び評価制度（案）
参考3 日本地震工学会 原子力安全のための耐津波工学の体系化に関する調査委員会設置趣意書

5. 議事内容

議事に先立ち、開始時点で委員 20 名中 16 名が出席しており、分科会成立に必要な定数（14 名以上）を満足している旨が報告された。

（1）議事録確認

前回議事録について、資料 RK2SC 15-1 に基づいて桐本幹事から説明があり、承認された。

（2）津波 PRA 標準を受けた適用事例集の作成について

資料 RK2SC 15-2-1 により、桐本幹事から、評価適用事例集（項目整理案）の進捗状況について説明があった。事例 I（沿岸発電所）と事例 J（海底地形評価モデル）は参考文献を記載する必要があり、状況を作成済から作成中に修正することになった。

資料 RK2SC 15-2-2 により、桐本幹事から、別冊：評価適用事例集の「まえがき」及び「目次」について作成案の説明があった。「まえがき」については発生前のみならず発生後の知見も入れている趣旨で文章を見直すことになった。「目次」については事例 J（海底地形評価モデル）を事例 G（海底砂移動）に含めることになった。

資料 RK2SC 15-2-3 により、成宮委員から、前回から修正した箇所について説明があった。漂流物としてタンクやクレーンなどの実例があるのでそれらを補足追加することになった。また、タイトルについては着眼点も考慮して内容に相応しいものに検討工夫することになった。

資料 RK2SC 15-2-4 により、西尾常時参加者から、前回から修正した箇所について説明があった。これに対して標準に則っていないところがあるため、そのことを丁寧に記載しておくのがよいとのコメントがあった。

資料 RK2SC 15-2-5 により、松山委員から、改訂版の説明があり議論した。地震が連動して起こるなどの課題があるので、事例作成のスタンスを序文に記載するようにとのコメントがあった。また標準に適合していない所があれば、そのことを記載するようにとのコメントがあった。

山口主査より、事例 C (漂流物) は事例 E (漂流物衝突) に統合し、事例 D (防潮堤フラジリティ) と事例 E は一緒にして作成してはどうかとの提案があった。

資料 RK2SC 15-2-6 により、美原委員から、前回からの変更点について説明があった。流速の比較評価において女川や塩釜のデータは使わないのかとの質問があり、上限と下限があるものしか使わないとの回答があった。また水深係数の中央値は上限値を用いているようだが保守性を入れない方がよいのではとのコメントがあった。

資料 15-3-1 ~ 15-3-6 により、桐本幹事から、英文チェックの資料紹介があった。まだ未提出の担当者は来週ぐらいを目途に提出することになった。

その他の事例については次のようになった。

事例 F (被水・没水): 付属書の参考に入っているが事例集にも載せる。

事例 G (海底砂移動): 事例 J (海底地形変化) と合わせて一つにまとめる。

事例 H (洗掘): 事例集から削除する。

資料 15-4-3 により、美原委員から、建屋・機器フラジリティ評価の実施基準の今後の改定に関して短期的または中長期的な検討課題について紹介があった。

山口主査より、地震 PRA 分科会 フラジリティ評価作業会主査として、作業としては地震と津波の重畳までを行い、12 月までに骨子案を作成したいとの意向が示された。平野委員からは地震 PRA 分科会主査として素案の作成が望ましいとの意見が出された。

参考 2 により、美原委員から、津波ハザード評価からフラジリティ評価までの解析グレードについて説明があり議論した。

参考 3 により、桐本幹事から、地震工学会における原子力安全のための耐津波工学の体系化に関する調査委員会設置趣意書について紹介があった。

(3) 今後の予定等について

資料 RK2SC 15-5 により、桐本幹事からスケジュール等の説明があった。

次回、第 16 回分科会は 10 月 15 日の週を予定。

以上